

## 1 学習指導の基本方針

- (1) 生徒自らが学ぶ姿勢を大切に、生徒の知的好奇心を刺激し、学びのよろこびを感じさせる授業を行う。
- (2) 事象の本質を捉え、原理原則から発展的な学習へと導く、質が高く深みのある授業を行う。
- (3) 大学入試問題研究・作問研究、各種テストの分析、授業研究、各種研修会への参加、幅広い読書など、教科指導力向上のための研鑽に努める。

## 2 指導改善と学力向上へ向けて

- (1) 年間の継続的な授業改善 R-PDCAサイクルに基づき、質の高い授業作りと授業実践に努める。

Research	→ Plan	→ Do	→ Check	→ Action
教科会議による 現状分析	学びの意義 シラバスの作成	授業実践	授業評価 互見・公開授業	授業改善

- (2) 生徒の学習意欲を高める仕掛けづくり

生徒の学習意欲を高めるために、日々の授業の様子や「授業評価アンケート」から、生徒の授業に対する興味と意欲を読み取り、集団や個に応じた指導を工夫する。

### ■ A R C S モデルー動機付けモデルの活用

Attention (注意)、Relevance (関連性)、Confidence (自信)、Satisfaction (満足感)  
4つの側面をチェックして、効果的に生徒の学習意欲を高める。

- (3) 授業改善と内容の充実を目指して

### ■ 授業スタンダード

生徒をアクティブ・ラーナーに導く授業の標準形を設定し、学校全体で実施する。

#### A 授業目標の提示

- ① 生徒が見通しをもって授業に臨めるように、授業目標を明確に伝える。

#### B 主体的活動を設定

- ② 生徒が思考する活動を取り入れ、「わかった」を実感させる。
- ③ 授業内で生徒が成功体験できる活動を取り入れ、「できた」を実感させる。
- ④ 復習（家庭学習）に繋がる学習システムを授業内活動で体験させる。

#### C 振り返る機会の設定

- ⑤ 学習内容を整理するために、授業内で学習内容を振り返る時間を設ける。

- (4) 学習内容の定着のためのアプローチを研究・実践し、結果を共有する。

#### ア 授業方法の工夫

授業方法を工夫し、単元や題材のまとまりの中で、必要な部分に最も適した方法で授業を行う。  
また、それぞれの授業方法をよりよいバランスで展開する。

① 講義型授業	知識・思考方法を系統的に伝達
② A L 型授業	身につけた知識・技能を活用する主体的・対話的で深い学び
③ I C T 型授業	I C T の利活用による新たな学び

#### イ 習熟度別授業の工夫

指導計画を立案、学習内容やねらいの共通理解を図り、習熟度別授業を実効性のあるものにする。

#### ウ 学習内容の定着のための工夫

インプットとアウトプットの繰り返しを促す様々な方法を工夫し、学習内容の定着を図る。

- (5) 指導と評価の一体化を目指して

ア 評価は生徒にとっての学習に対する成果であり、学習をより一層充実させるためのものである。

評価結果によって指導を改善し、新しい指導の成果を再度評価する。

イ 定期考査等のペーパーテストによる評価に加えて、パフォーマンス評価やルーブリック評価、ポートフォリオ評価など多面的評価を活用し、資質・能力のバランスのとれた評価を行う。



## 3 学習習慣の確立 ー家庭学習の充実を目指してー

- (1) 課題の工夫

#### ア 組織的な課題提供

課題の出し方や内容、量については、発達段階に応じた適切なものとなるよう、学年団、進路課などで協議し、共通理解を図る。

#### イ 課題の内容

課題は量よりも質を重視する。学習内容の定着を図る復習が行える課題、習熟度別授業を実施している場合にはレベル別課題等、効果的なものとする。

- (2) 学習時間のスタンダードの活用

各ステージにおける標準的家庭学習時間(週平均)を示すとともに、生徒の弱点科目に応じた学習を支援する。